

商工会議所は、市など一定地区内の商工業の世論を代表し、商工業の振興に力を注いで、国民経済の健全な発展に寄与するための地域の総合経済団体です。各県には県内の商工会議所を会員とした商工会議所連合会有り、会員間の協調を図るとともにその意見を集約し、行政機関および県内経済団体などとも連携して、産業経済の改善・発展に寄与することを目的とした事業活動を行っています。

このシリーズでは、中部9県の商工会議所連合会を訪問し、各県の現況や課題、商工会議所連合会、および傘下の商工会議所の活動などについてのお話を伺います。

第7回となる今回は滋賀県商工会議所連合会です。

## 第7回 滋賀県商工会議所連合会

### 滋賀県商工会議所連合会概要

住 所：〒520-0806 滋賀県大津市打出浜2-1 コラボしが21 5F

代表者：会長 大道 良夫

URL：<http://shigacci.com/>

創 立：1963年1月25日

県内商工会議所数：7

地区内商工業者数：24,190（2013年12月31日現在）

県内商工会議所会員数：9,158（2013年12月31日現在）



会 議 所 名	所 在 地	会 議 所 名	所 在 地
大津商工会議所	大津市打出浜2-1 コラボしが21 9F	八日市商工会議所	東近江市八日市東浜町1-5
長浜商工会議所	長浜市高田町10-1	草津商工会議所	草津市大路町2-11-51
彦根商工会議所	彦根市中央町3-8	守山商工会議所	守山市吉身3-11-43
近江八幡商工会議所	近江八幡市桜宮町231-2		

## 滋賀県商工会議所連合会

専務理事 沢井 進一 氏



## 滋賀県商工会議所連合会の役割、事業内容

－滋賀県商工会議所連合会の役割と主な事業内容についてお聞かせください。

沢井 滋賀県商工会議所連合会では滋賀県の7つの商工会議所を束ねており、私どもが中心となって各商工会議所間の連携を図っております。また、県内の経済団体である滋賀県商工会連合会、滋賀県中小企業団体中央会、滋賀経済産業協会、一般社団法人滋賀経済同友会、公益社団法人びわこビジターズビューローとともに「滋賀経済団体連合会」をつくり、その副会長を務めており、ここでの活動が主になります。

政策提言が第一の事業です。具体的には、秋頃に国や県知事に対して次年度の政府予算、県予算について全体的な要望を行うことです。また、商工会議所が参画している県内の諸団体に対し、男女雇用問題、経済支援問題、環境問題などについて提言しています。特に、昨今は電力の問題が大きいですね。隣県の福井県には大飯原発がありますが、商工会議所としては「安心安全が確保されれば原発は再稼働すべき」という考え方です。滋賀県はものづくり県ですから電力の安定的確保は必須ですし、とりわけ中小零細企業が多いのでコストの安い電力が必要とされています。そこで、私どもが中心となって電力の安定供給を図ってほ

しいという提言をしています。とはいえ、自然エネルギーをないがしろにしているわけではなく、環境面などの活動や提言にも力を入れています。

－各商工会議所をとりまとめるにあたって、苦労されている点があればお聞かせください。

沢井 ほぼ2ヶ月に1回、幹事会を開催しています。問題があればそこで調整することになっていますが、現時点では特に大きな問題はありません。原発問題がクローズアップされたときには各会議所で認識に差異がありましたが、基本的な考え方は同じなので一致した行動がとれました。

－各商工会議所との情報の共有や連携において、力をいれている点、工夫されている点があればお聞かせください。

沢井 県内に7つの商工会議所がありますが、近年の市町村合併で規模が大きくなった市には、市の中に商工会も存在する例があります。平成の大合併以前に合併が行われた大津市や彦根市などにも、旧町に商工会が存続しています。そうした中で、たとえば2008年の「源氏物語千年紀in湖都大津」事業では、商工会議所と商工会が連携をしました。また、2011年にNHK大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」が放映された時には、長浜と彦根の商工会議所が共同でPRを実施しました。

観光客誘致などは、各商工会議所がそれぞれで行うのではなく、県内の団体が全体で取り組まなければいけません。全体を統括する「実行委員会」を設置して、それぞれの団体が役割を果たすなどの工夫をしながら、関係者が連携して取り組んでいます。

## 滋賀県の産業

－滋賀県の産業の概要、特徴についてお聞かせください。

沢井 滋賀県は、水や電力が豊富で交通アクセスが良く、多様な業種の工場が集積しているのが特徴です。名神高速道路の開通以来、盛んに企業誘

致が行われ、ものづくりが大きく伸びました。しかし、単にものをつくるだけでなく、知恵もないといけないということから、昭和40～50年代にかけて主に理工系大学や研究所などの誘致にも取り組みました。さらに、文化面の充実も図る観点から、水に関係する施設、研究所の整備にも力を入れてきました。

滋賀県は、近畿・中部・北陸を結ぶクロスポイントであり、さまざまなサプライチェーンにおいて、重要な役割を果たしていますが、中小規模の事業所が多いこともあり、経済動向の影響を大きく受ける傾向があります。

—滋賀県は交通の要衝という立地条件から大企業や関連企業の工場も多く、県民総生産に占める第二次産業の割合が全国一位というほど工業が盛んですが、現況と課題についてお聞かせください。

沢井 抜きこんでいる製造業の中でも、輸送機械が筆頭です。2番目に化学工業、3番目に電気機械、以下、プラスチック、生産用機械というところ。製造品の出荷総額は6兆円を超えています。また、県民総生産における第二次産業の割合は42.6%で全国1位であるほか、県内就業者の約3割が製造業に就業し、1事業所あたりの付加価値額は全国2位です。さらに、製造業をバックアップする理工系大学や研究所が点在しており、学生の数が多いことも特徴です。一人あたりの県民所得も全国2位です。

第二次産業以外の産業の底上げをすることで第二次産業の比率を下げようと努力していますが、なかなか成果には結びついていません。製造業を中心とした産業構造を変えるのは簡単ではありません。製造業が生産する製品の魅力や価値を高めていかないと、なかなか他の産業も引き上げられないようです。そこを伸ばしていくことが、今後の大きな目標です。

—滋賀県には、長浜縮緬、彦根バルブ、彦根仏壇、彦根ファンデーション、湖東麻織物、甲賀・日野製薬、信楽陶器、高島綿織物、高島扇骨といった

伝統的な地場産業があり、「メイド・イン・滋賀」と銘打ってPRに取り組んでいます。現況と課題についてお聞かせください。

沢井 滋賀県は、面積の1/6が湖、1/2が山、残りが市街地、商業地、農地などという地形です。県内は湖北、湖西、湖東、湖南の4エリアに分けられます。それぞれ文化が異なるため、地場産業も地域ごとにさまざまです。各地域は、伝統的な地場産業をベースとして地域経済を発展させてきた歴史があります。古くから盛んであった繊維産業を背景に、多くの関連産業が入ってきたのはその一例です。

甲賀では、古くから医薬品産業が盛んで、近年ではジェネリック薬品が順調に伸びています。彦根のバルブは、県内最大の地場産業で、全国最大の集積地を形成しており、最近の公共事業の増加によって生産額が増加に転じています。このように、好調な地場産業もありますが、滋賀県の製造業全体の1事業所あたり製造品出荷額が22億円超であるのに対して、地場産業は約2億8千万円、一人あたりの出荷額では1,840万円と、全体的には中小企業が中心で生産性も低い状況です。そこで近年では、こだわりや物語性を前面に出した、消費者に訴求力のある付加価値を付ける「感性産業の創出」を推進してきました。続々と新しいアイデアを出して、全国そして世界に売り出そうとしています。信楽焼と彦根仏壇のコラボレート、浜縮緬をウェディングドレスに使う試みや、湖東の麻では大学と連携してファッション性を高める取り組みなど、さまざまな動きがあります。それぞれが一生懸命やっています。

—滋賀県というと「近江商人」が連想されますが、現代の滋賀県の経済活動においてその継承や哲学の実践などが見られる例がありましたらお聞かせください。

沢井 近江商人に起源を持つ企業は、丸紅、伊藤忠商事、高島屋、日本生命保険、ワコールなどたくさんありますが、社是を見ると近江商人の精神に基づいたことを書いておられる企業が多いよう

です。多くの企業が、CSR（社会貢献活動）を通して社会に還元するという思想があるのではないのでしょうか。

「売り手よし、買い手よし、世間よし」の三方よしが近江商人の精神で、企業経営のルーツといえます。企業倫理の欠如が最近よく話題になりますが、自己中心的な会社経営ではなく近江商人の精神に立ち返ることが大事だといろいろなところで言われています。人材育成においても、近江商人の哲学を生かした、人間性を重視する評価のあり方が求められていると思います。

ー滋賀県には近江米、近江牛など全国的に知名度の高い農畜産物がありますが、その現況と課題や、農商工連携の事例があればご紹介ください。

沢井 近江牛も近江米も、早くからブランド化に取り組んできました。ただし、質がいいからといって売れるとは限りません。もともと、滋賀県の農産物は京都などの市場に出していましたが、鮮度が落ちれば消費者に敬遠されます。そこで、消費者の心を捉えるように、アンテナショップや道の駅などの施設における対面販売に力を注ぐようになりました。そうした取り組みを続けたことで、今では京都や大阪からそれを目当てに来てくれるようになりました。農産物の地元販売がひとつの産業になりました。

近江米は減農薬の取り組みをやっていますし、近江牛は指定店登録制度や統一認証ロゴマークの制定などを行っています。お茶も統一銘柄の商品



「近江牛」統一認証ロゴマーク

提供：「近江牛」生産・流通推進協議会

を作りました。琵琶湖の魚は生産者団体が中心となって最新の冷凍技術を活用した新たな加工品がでてきました。商工事業者と農林漁業者がタイアップするなど六次産業化や農商工連携が進んでいます。

ー名古屋、関西の二大都市圏から近く、琵琶湖を中心とした恵まれた自然、有名な社寺、城郭、町並み景観など豊富な観光資源を有する滋賀県ですが、観光の現状と課題についてお聞かせください。また、長浜の黒壁スクエア、彦根のゆるキャラまつり、近江八幡の商店街活動など、町おこしと観光が連動した取り組みが早くから行われ、全国的な知名度を高めることに成功した事例が多い滋賀県ですが、今後の展望をお聞かせください。

沢井 観光客は各地で順調に伸びています。NHKの大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」の影響もあり、県全体の延べ観光客数は2011年には約4,700万人に達しました。ところが、宿泊客が年間約300万人ほどと、日帰りの観光客と比較して少なくなっています。観光客のうち82.1%が日帰り、出発地も近畿が55.6%、中部北陸が35.4%でこの2地域で約9割を占めています。

宿泊客が少ない原因ははっきりしています。交通アクセスがよく、四方の近県から短時間で来られるからです。旅館は日帰り客向けのサービスを充実させて集客に努めていますが、本音は宿泊客が欲しいところです。一部には、京都に来て近くで宿泊料金が安い大津市に宿泊される例もありますが、滋賀県に観光に来て京都で泊まる人がとても多い状況もあります。

滋賀県に来られる方にアンケートを取りますと、95%くらいの方が「満足している」と回答されます。ただ、満足度が高いといっても、有名観光地から少し離れたところにはなかなか足を向けてもらえない。また、近江牛などおいしいものが多いにもかかわらず、PRが不足している面があります。観光客の方にさまざまな方面に目を向けていただけるように、また、われわれも観光客の方に滋賀県らしさを提供できるよう、ひとつひとつ

積み上げていかなければなりません。

そうした取り組みの一例として、体験型の観光を推進するため2012年から「ビワイチ認定ツアー」という企画を展開しています。「ビワイチ」とは「びわ湖一周」の略称で、観光推進ブランド名として商標登録しています。滋賀県商工会議所連合会もメンバーとなって体験観光ツアーを企画立案し、旅行会社とタイアップして売り出しています。体験型観光を推進することで、宿泊客が伸びりピーターも増えるのではないかと期待しています。

ブランド化の推進や認知度の向上も目標ですね。例えば、首都圏で配布されるパンフレットには、「京都へ行こうー琵琶湖、石山寺、比叡山」というように、滋賀県が京都とセットで扱われているものがあります。かつて、あえてそうした売り方をしたことの影響です。今は滋賀県の認知度を高めるべくさまざまな策を練っていますが、あまり良い結果はでていません。「滋賀県＝琵琶湖」を強く打ち出すことで、なんとか打開していかなければと思います。

海外からの観光客という面では、まだまだ世界からの認知度は低い状況です。活発に誘致などを行っていますが、今は種をまいている段階という感じで、残念ながら集客までには至っていません。国際会議の開催についても、環境良好で宿泊施設も整っているにもかかわらず低調で、誘致の促進が課題です。

ー日本最大の面積を有する琵琶湖には多彩な生物が生息し、古来より漁業も盛んでしたが、一方で早くから環境の悪化による生態系の“ゆがみ”などの問題が指摘されています。現況と課題についてお聞かせください。

沢井 富栄養化の問題は、ずいぶん改善されてきました。1977年の赤潮発生を機に琵琶湖の富栄養化への問題意識が高まり、1979年に「富栄養化防

止条例」を制定して主婦の皆さんが中心となって「石けん運動<sup>(注2)</sup>」を行いました。また、さまざまな団体が一緒になって琵琶湖の環境再生活動を行った結果、水質そのものはかなり改善しています。ただ、最近では水草の異常増殖が大きな問題です。2009年に南湖（琵琶湖の南部）でオオバナミズキンバイ<sup>(注3)</sup>という水草が初めて確認され、その後すごい勢いで増えています。除去活動を行っていますが、繁殖力が極めて強くて苦勞しています。オオバナミズキンバイ以外にも、魚類をはじめとしたさまざまな外来種の動植物による生態系の破壊があり、これらへの対応が近年の大きな課題です。

滋賀県では、「豊かな琵琶湖を取り戻そう」「琵琶湖にもっと関わろう」ということで7月1日を「びわ湖の日」としており、2011年に制定30周年を迎えました。各商工会議所でも「びわ湖の日」にちなんださまざまな事業を展開しています。2013年からは「民間との協働」をテーマに掲げて企業、大学、NPOなどと連携して琵琶湖に関する活動を活発化させています。

琵琶湖以外の環境問題としては、低炭素社会への取り組みが重要なテーマです。国が定めた50%の削減は困難ですので、その撤回を政策提案に入れています。とはいえ、低炭素社会の実現に向けて、まずはできるところからやっていく必要があると思っています。レジ袋の削減は各商工会議所でも推進し、県内ほぼ全域で有料化されています。太陽光発電のPRも行っています。こうした取り組みは、企業や県民が一体となって推進することが重要です。「環境先進県」の名に恥じないように、できることは積極的に取り組んでいきます。

ー各地域の商工会議所の特色のある活動があればご紹介ください。

沢井 最近各地でB級グルメが盛んで、それに関連する活動が多いです。去年は、大津商工会議

(注1) 海や湖沼などの中の栄養分が偏る事により、生態系が一時的に崩れ、それによって生物に影響を与えること。

(注2) 琵琶湖の水質を守るために、富栄養化の元凶であるリン酸塩を多量に含んだ「合成洗剤」の使用を止めて、不便だが琵琶湖にやさしい「粉石けん」を使おうという住民運動。

(注3) 断片からでも再生できる高い再生能力、繁殖能力を持つアメリカ大陸原産の外来水生植物。魚の産卵場所であるヨシ群落など、水辺の在来植物群が生育できなくなってしまうため早急な除去が必要。

所が、「滋賀B級グルメバトル」を開催し、東近江市の八日市商工会議所は「第3回全国ご当地うどんサミット2013 in 東近江」に取り組みました。他には、近江八幡市で実施されている琵琶湖のヨシ刈りイベントなどがあります。

## 滋賀県の交通インフラ整備

—滋賀県は、東海、北陸、近畿の3圏域を結ぶ交通の要めとなっていますが、交通インフラ整備について、現状と課題についてお聞かせください。

沢井 2008年に新名神高速道路の亀山—大津間が開通したことで、中部圏との行き来がますます便利になりました。車が集中していた名神高速道路の混雑もかなり軽減されています。観光面では新たな交流が生まれていますし、企業立地に関しても沿線の甲賀市にある八田サテライトパークは、企業からかなりの申し込みがあり、地域の活性化に寄与しています。昨年には、事業凍結されていた大津以西の事業再開も決まりました。名神高速道路では、昨年10月21日に湖東三山スマートインターチェンジ、12月22日に蒲生スマートインターチェンジがそれぞれ設置されました。また、北陸自動車道では、2016年度に（仮称）小谷城スマートインターチェンジが設置される予定です。一連のアクセス改善は、観光の面でも期待ができます。一般道路では、特に直轄国道の整備が課題です。滋賀県内の整備率は、全国平均の62%に対して42%しかありません。このため、絶えず渋滞が発生しています。滋賀県には国道1号や国道8号などの幹線道路がありますが、他の主要道路と交わる箇所などで著しく混雑します。また、有料だった近江大橋が昨年末に無料開放されました。商工会議所でも経済活性化のために早期無料化を呼びかけていたところでした。

北陸新幹線の敦賀以西については、滋賀県を通る案として米原ルート案と湖西ルート案があります。建設費は基本的に地元負担ですが、滋賀県は通過地なので、関西広域連合では、受益に応じて関西全体で負担することとしています。並行在来

線も第三セクター化されてしまうことになれば、大きな問題になるでしょう。

また、JR草津線の複線化も課題のひとつです。沿線は、新名神高速道路の開通で沿線に多くの工場が進出しましたが、従業員が通勤で使う草津線の輸送力の増強が求められています。

—防災対策などでの活動があればご紹介ください。

沢井 大津商工会議所では、市内の2商工会とともに大津市との間で「災害時における生活物資の調達等に関する協定」を締結しました。また、2005年に「企業防災マネジメント研究会」が設立されて県内でのBCP（事業継続計画）の普及に取り組み始めました。滋賀県には中小零細企業が多いので、特に東日本大震災以後は、中小零細企業でも取り組めるような提言を行うように工夫しています。大手のようにはできないものの、従業員を一番大事にしながら、どう対応するかについて、身近にできるところからBCPを作っていたかなければなりません。

## 滋賀県からみた中部圏

—中部圏において滋賀県が果たしている役割についてどのようにお考えでしょうか。また、滋賀県からみた中部圏とはどのような圏域なのでしょうか。

沢井 滋賀県は、近畿圏に入っていますが、中部圏ともつながりが深く、さらに北陸との関係も深いです。3圏域の結節点になっているだけに、今後の発展の大きな鍵を握っているのではないのでしょうか。サプライチェーンに大きい役割を担う一方で、経済動向によっては振り回されてしまう部分もあり、それを他府県とどうシェアしていくかがポイントです。また、産業において滋賀県が果たしている役割を踏まえつつ、圏域の中でどうやって滋賀県らしさを出していくかなどが課題です。この先、オリンピックなどで東京への注目がこれまで以上に高まると思います。今こそ日本のまんに位置している3圏域が力を結集していかない

と、東京一極集中に対抗できないのではないのでしょうか。

そうしたなかで、滋賀県は地の利を生かした産業集積、研究機関の集積に基づく知的支援、琵琶湖や森林などの豊かな自然資源、そして長い歴史と豊かな文化などのさまざまな強みを発揮しながら、産業や観光の振興、環境の保全、交通網の整備に取り組んで、各圏域の橋渡しの役割を担っ

ていくべきです。

とりわけ、中部圏は「身近な圏域」だと感じています。肌合いでは、近畿圏よりも中部圏のほうが近い部分もあるかもしれません。以前から「日本まんなか共和国」<sup>(注4)</sup>に参加していますし、中部広域観光推進協議会にも入っています。これからも、中部圏の中での連携は特に大事にしていきたいですね。

### 数字で見る滋賀県の姿

県庁所在地：大津市 人口1,417,499人 (2013年12月1日現在)

面積	4,017 (km <sup>2</sup> )	2011年
市町村数	19 (市町村)	2013年4月
総人口	1,394 (千人)	2011年度
総世帯数	525 (千世帯)	2011年度
人口密度	347 (人/km <sup>2</sup> )	2011年
就業者数	674 (千人)	2010年
外国人登録者数	25,436 (人)	2011年
産業別就業 者数構成比	第1次産業	2.8 (%)
	第2次産業	32.7 (%)
	第3次産業	59.4 (%)
県内総生産	5,702 (10億円)	2009年度
一人当たり県民所得	2,955 (千円/人)	2009年度
事業所数	64 (千事業所)	2009年
鉱工業生産指数	103.0 (05年=100)	2011年
消費者物価指数	99.4 (10年=100)	2011年
農業産出額	53 (10億円)	2010年
製造品出荷額	6,574 (10億円)	2010年
卸売業年間販売額	1,156 (10億円)	2007年
小売業年間販売額	1,361 (10億円)	2007年
情報サービス業売上高	12 (10億円)	2010年
大学等進学率	58.0 (%)	2011年
乗用車保有台数	33 (台/百人)	2010年度

(注4) 日本の本州の東西軸のほぼ中央に位置する福井県、滋賀県、三重県、岐阜県の4県が連携して行う、広域の観光誘致活動、域内交流を促進する事業の総称。